

<H7-6-A : 問題>

次の文は、国土地理院発行の1/50000地形図の編集作業での転位について述べたものである。間違った処理をしたものはどれか。

1. 記号化して表示する二条道路（記号道路）の縁に水準点があるが、二条道路の中心線を真位置に表示し、水準点を転位した。
2. 河川と鉄道が近接して並行しているところでは、自然物である河川を真位置に表示し、鉄道を転位した。
3. 三角点と高塔が近接しているところでは、高塔を真位置に表示し、三角点を転位した。
4. 鉄道と国道が近接して並行しているところでは、両者の中間を中心線として、双方を等しく転位した。
5. 道路と等高線が重なるところでは、道路を真位置に表示し、等高線を転位した。

<H7-6-B : 問題>

図6-1は、国土地理院発行の地形図の一部である。次の1～5は、図中の警察署へ行く道順を説明したものである。間違っているものはどれか。

1. 裁判所からは、まず北にある国道を出て、西方約1kmにある交差点を右折して約350m進むと右手にある。
2. インターチェンジからは、国道を東進し、郵便局を過ぎて最初の交差点を右折して約300m進むと左手にある。
3. 税務署からは、北約250mにあるT字路を左折し、橋を渡ってから約1km直進すると右手にある。
4. 警察署の最も近い駐在所からは、約300m南進し、交差点を右折し約1km進むと右手にある。
5. 市役所近くの病院からは、南側にある道路を約500m西進すると左手にある。



図6-1

※縮尺は、正確に表示されない場合があります。

<H7-6-C : 問題>

次の文は標準地域メッシュ（昭和48年7月12日行政管理庁告示第143号）について述べたものである。□に用語をいれて正しい内容の文章にしたい。最も適当な用語の組合せはどれか。

標準地域メッシュは国土全体を一定間隔の経線と緯線で格子状に区画したもので、各種のデータについて、区画相互間の比較や同一区間の時系列的比較が容易である。また、電子計算機による処理や図形出力も簡単にできる利点がある。

この区画は次に示す階層的な構造になっている。

第一次地域区画は、国土全体を1°ごとの経線と40'ごとの緯線によって縦横に分割した区域であり、これは□ア□一面の範囲に相当する。また第二次地域区画は、第一次地域区画を縦横8等分した区画で□イ□一面の範囲に相当する。第三次地域区画は、第二次地域区画を縦横10等分した区画であり、この区画を□ウ□ともいい、その大きさは約□エ□である。

	ア	イ	ウ	エ
1	1/200,000 地勢図	1/25,000 地形図	基準地域メッシュ	1 km × 1 km
2	1/50,000 地形図	1/25,000 地形図	2倍統合メッシュ	10 km × 10 km
3	1/200,000 地勢図	1/50,000 地形図	基準地域メッシュ	1 km × 1 km
4	1/200,000 地勢図	1/50,000 地形図	2倍統合メッシュ	10 km × 10 km
5	1/50,000 地形図	1/25,000 地形図	分割地域メッシュ	1 km × 1 km

<H7-6-D : 問題>

表6-1に示すa～fの文の中に、数値地図作製のための入力装置の一つであるスキャナについて述べたものである。最も適当な組合せはどれか。

1. a, c, f
2. b, d, e
3. b, d, f
4. a, d, e
5. b, c, f

表6-1

a	計測する対象物にカーソルを合わせる時のズレによる誤差が生じやすい。
b	50 μ mピッチでデータを入力できる装置もある。
c	この装置で読み取ったデータは、ラスタ型（画素データ）である。
d	座標読み取りテーブル上に固定された図面から、任意の点のXY座標値を計測できる。
e	この装置で読み取ったデータはベクタ型（位相座標データ）である。
f	大量の図面を数値化する場合に、比較的短時間でも処理できる。